

SUN たなと。

心通じ合う信頼関係で
安心して元気に暮らせる
地域をつくる

広野地区ふれあい活動推進
協議会会長

行羅 博文^{さん}

Hirofumi Ikura 加茂



ラジオ・ハニー FM でもっと詳しく聴けます！【6/20 15時10分～】

「誰かのためにと思っていて活動している」と疲れを感じませんね」と、張りのある声で話すのは、ボランティアや民生委員・児童委員などを長年務め、現在は広野地区ふれあい活動推進協議会の会長として活躍する行羅博文^{さん}。健康で活動できることへの感謝と喜びを大事に、日々尽力している。

活動する上で大切にしているのは信頼関係を築くことだ。相手の話をよく聞き、その人の立場から物事を考え、対話する。納得して、活動へ参画してもらいたい。役員同士では、こまめに情報共有し、連携を密にすることで、組織として迅速に対応できるようになった。役員の負担が増えた部分もあるが、皆が納得して、チームで活動できていると感じている。

協議会はさまざまな事業に取り組んでいるが、参加する人の気持ち第一。「次回も参加したいから元気でしょう」と思ってもらえる事業こそ、地域に必要な事業だと思ふ。

今後は、子どもから高齢者まで、年齢を問わない見守り活動に力を入れたい。子どもの居場所づくり活動で、帰宅の付き添いをしていた時のこと。さきほどまで楽しそうにしていた子が、家が近づくにつれて笑顔が消え、足取りが重くなり、「誰もいない家に帰りたくない」とポツリと話した。子ども

を地域で見守る仕組みが必要だと強く感じた瞬間だった。

また、地区で実施した高齢者の心配事に関するアンケートで、特に免許返納や外出困難の不安が多かった。これをきっかけに外出支援に取り組み始めたが、高齢化に加え、単身高齢者が増えている地域の状況から、さらなる対応が必要だと考えている。

令和2年の会長就任以来、コロナ禍で思うような活動ができず、悔しい思いがあった。すると、苦労を共にしてきた仲間から「もう一年、皆で一緒に頑張りたい」というあたたかい言葉が。信頼関係を大切にしてきた自分の気持ちがあつたよううれしかった。全ては、地域の人たちに安心して暮らしてほしいとの思いがあるから。我慢すべき時を越え、いざ前進。

チームの和やふれあいを大切にしている行羅さんと、地域の仲間が一致団結しています。いつも思いやりがあり、そして穏やかでコツコツと進める行羅さんですが、決断力や行動力を強く発揮する時も。そこに「人のため」「地域のため」という想いの強さを感じます。



■ 広野地区ふれあい活動推進協議会で一緒に活動するおぎの 荻野 元子^{さん}